

鹿部町地域おこし協力隊通信

「A級グルメ・新規事業担当」

地域おこし協力隊 阿部 成史 隊員

Shikabe, the Beautiful and Myself



ああ男二十九歳、大人にならなければならぬ。短い鹿部の夏が終わり、駒ヶ岳の長い影が噴火湾に落ちる頃、自分が人生の岐路に立っていることを感じる。

いま何をすべきで、何をすべきではないのか。鹿部に来て一年半が経つが、駒ヶ岳はいつも美しく、見飽きることがない。その個性的な山容に目を奪われてしまう。この山を見ていると「美人は三日で飽きる」という常套句は間違いであることがわかる。なぜだろうか。ある種の緊張を強いられるからだ。約四百年前の大噴火によって、駒ヶ岳は現在の姿となった。九十一年前の噴火では、道庁が鹿部村に廃村命令を出すほどの被害が出た。美しさと危うさはときに表裏一体のものだ。

もしこの瞬間にこの山が破局的な噴火を始めたらどうなるだろうか、ふと考えることがある。僕は無力だ。そして僕の好きなこのまちは姿を変えてしまう。一年後なのか、百年後なのか、千年後なのかわからないが、いつかはそのときが来る。

消える運命にあるのは我々も同じだ。五十年後なのか、百年後なのか、明日なのか。当たり前のことだが——そして忘れがちなことだが——すべてのものはそういう運命にある。駒ヶ岳はそれを思い出させてくれるから好きだ。

僕はあと何回、間歇泉が吹き出す瞬間を見られるのだろうか。あと何回、鹿部公園の冷たい川に足を浸せるのだろうか。あと何回、愛する人の笑顔を見られるのだろうか。これからの人生、何をポケットに詰め込み、何をゴミ箱に捨てるべきなのか。求めるべきは力ネなのかモノなのかヒトなのか。

九十一年前、鹿部を廃村の危機から救ったのは力ネでもモノでもなくヒトだった。鹿部の復活を信じていた先人たちは、噴火によって昆布が育たなくなった海に石つぶてを投げ続けた。そして十年もの歳月をかけて最高の昆布がとれる海を取り戻し、廃村命令を撤回させた。

危機的な状況であればこそ、何よりも人を大切にしなければいけない。人を形作るのは文化であり、人を動かすのは誇りである。ピレッジプライドを醸成するA級グルメという思想の本質はここにある。

●あべなるひと

地域おこし協力隊（A級グルメ・新規事業担当）。宮城県石巻市出身。立命館大学政策科学部在学中に石巻市役所に入庁、東日本大震災からの復興に従事。2015年、地方創生系ITベンチャー企業に転職。プロジェクトマネージャーとして、北海道から沖縄まで様々な地域の支援を行う。A級グルメ構想に共感し、2019年に鹿部町に移住、地域おこし協力隊となる。

しかべ間歇泉わくわくサンデー！！～開催のお知らせ～

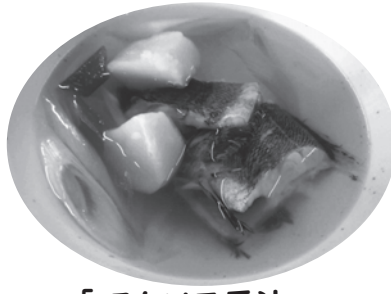
◇開催日時

令和2年10月25日（日）
午前11時から午後2時まで

◇イベント内容

ワンコイン海鮮丼ぶり
物販 { 鮮魚
ハワイアンドーナッツ
月替り足湯 ほか

温かい汁物の販売



「スエソ三平汁」

・・・道の駅からお願い・・・

新型コロナウイルス対策として、店内や買い物かごの消毒・換気等を実施していますが、お客様におかれましては玄関に設置している消毒液のご利用・マスクの着用のご協力をお願いします。

※お問い合わせ先 道の駅しかべ間歇泉公園 (TEL: 7-5655)